

NHK ONE for School を活用した「探究の型」の育成

～2 年生から始める情報活用能力の育成と探究的な学び～

藤本 渉（神戸市立池田小学校）

概要：本実践では、情報活用能力を基盤とし、NHK ONE for School を学びの手本として活用することで、2 年生児童の探究の型の育成を目指した。写真撮影や文字入力などの基礎的な情報活用能力を育成するとともに、生き物調べやミニトマト料理などの小さな探究体験を積み重ねた。さらに生活科「町たんけん」及び「おもちゃ研究」を通して、問いをもち、計画し、試し、振り返りながら比較・改善を重ねる学びを展開した。その結果、主体的に学びを進め、次の学びへとつなげようとする姿が見られた。

キーワード：探究的な学び、情報活用能力、NHK ONE for School、生活科、自己調整

1 はじめに

探究的な学びの実現が求められる中、低学年段階から問いをもち学びをつなげる力の育成が重要となっている。本実践では情報活用能力を基盤とし、NHK ONE for School を学びの手本として活用しながら探究の型の育成を目指した。ここでいう探究の型は、「①問いを持つ」「②計画する」「③試す」「④振り返る」「⑤改善する」「⑥比較する③から⑥のサイクルを繰り返し、「⑦次の探究へ」と発展的に進む学びのサイクル(図 1) である。

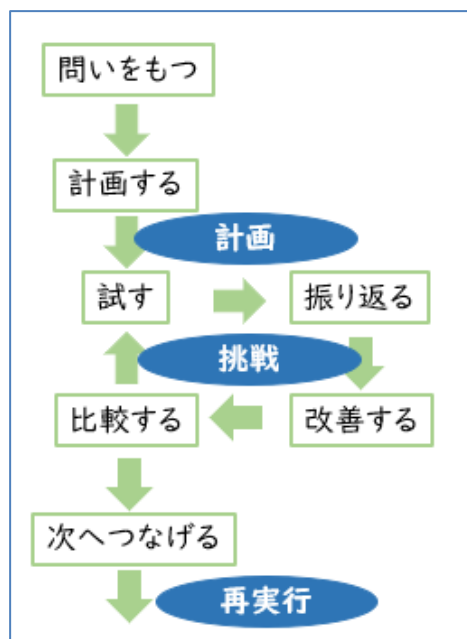


図1 池田小学校2年探究の型

2 研究の方法

(1) 調査対象および調査時期

2 年 1 組児童 36 人。2026 年 4 月から 9 月まで。

(2) 分析方法

本実践では、情報活用能力を基盤とし、NHK ONE for School を学びの手本として活用することで育成を目指した「探究の型」に着目し、その変容を分析した。分析資料として、児童が作成した学習計画、ワークシート、マインドマップ(図 2)、振り返りシート、クラウド上に蓄積した写真や動画、授業中の発言及び活動の様子を用いた。分析に当たっては、本研究で設定した探究の型である「①問いを持つ」「②計画する」「③試す」「④振り返る」「⑤改善する」「⑥比較する」「⑦次の探究へつなげる」の各段階を視点として整理した。特に、生活科「町たんけん」及び「おもちゃ研究」における児童の活動過程を比較しながら、探究的な学びがどのように形成され、発展していったのかを検討した。また、「おもちゃ研究」においては、「試す」「改善する」「比較する」のサイクルに着目した。児童が試行錯誤を繰り返す中で、どのような問いをもち、友達との対話や協働を通してどのように考えを深めたのかを分析した。さらに、試作品と改善後のおもちゃの動画

や記録を活用し、比較による気付きや学びの変容についても検討した。

加えて、NHK ONE for School の活用が、学習への興味・関心を高めること、学習の見通しをもたせること、比較や改善の視点を獲得させること、さらには友達との協働的な学びを促進することにどのように寄与したのかについても分析した。これらの分析を通して、情報活用能力を基盤とした探究の型の育成及び、探究的な学びの深まりについて考察した。

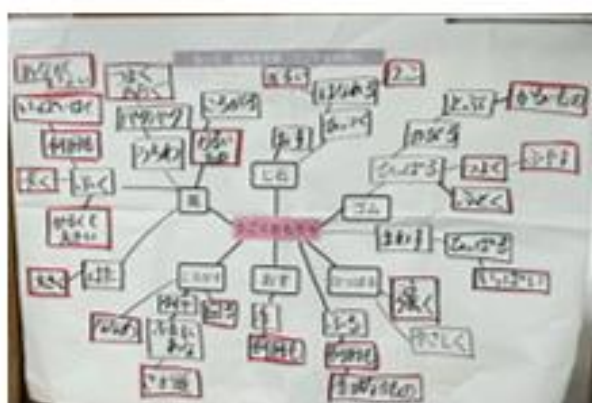


図2 うごくおもちゃを中心としたマインドマップ

3 結果

情報活用能力を基盤とし、小さな探究体験や単元を通した探究活動を積み重ねることで、児童は自ら問いをもち、計画的に学習に取り組む姿を見せるようになった。また、主体的に情報を収集し、体験したことと動画の内容を比較しながら学びを整理する様子が見られた。

生活科「おもちゃ研究」では、NHK ONE for School「おばけの学校たんけんたん」を活用して学習計画を作成したことで、児童は探究の型を具体的にイメージしながら学習を進めることができた。番組を通して、課題を見付け、試し、改善していく過程を理解したことで、自分たちの活動の見通しをもつことができた。

「試す」の段階では、教師から答えを与えるのではなく、自由に試行錯誤する時間を設定した。その中で、「どうしたらもっと遠くまで飛ぶのだ

ろう」「どうしたらもっと速く動くのだろう」といった問いが児童から自然に生まれた。また、番組の登場人物が工夫を重ねる姿を手本として捉えたことで、失敗を前向きに受け止めながら挑戦を続ける姿が見られた。実際に、「どうやったらとぶのをくふうするのがむずかしかった」「とぶやつ、はねるやつが何回もしっぱいしてやっとなんだ」といった振り返りも見られ、児童が試行錯誤を繰り返しながら課題解決に取り組んでいたことがうかがえた。

「改善する」の段階では、番組内の協働的に学ぶ場面を参考にしながら友達同士でアドバイスを行った。マインドマップを活用して考えを広げたことで、多様な改善の視点をもつことができた。また、友達の気付きや助言を取り入れることで、「もっと作りたい」「もっとよくしたい」という意欲が高まり、主体的に改善を繰り返す姿が見られた。さらに、自分では気付かなかった改善点や工夫を取り入れることで考えを深め、おもちゃをよりよいものへと発展させる様子が見られた。

例えば、ある児童は『「はこをおおきくしたらいいよ』と友達に言ってもらったが、大きい箱がなかったため牛乳パックで作ることを考えた。少し難しかったけれど、あきらめずにやったらできてうれしかった」と振り返っている。この姿から、友達からの助言を基に代替案を考え、試行錯誤しながら改善を進めていたことが分かる。

「比較する」の段階では、番組内のおもちゃがレベルアップする場面を視聴したことで、比較することや数値化することの価値を理解することができた。その後、改善前後のおもちゃの動画をクラウド上で共有し、いつでも比較できるようにしたことで、自分や友達の変化を客観的に捉えられるようになった。

児童の振り返りには、「最初はワゴムが1つだったけれど、3つにしたら遠くまで飛んだ」「最初は頑丈ではなかったため倒れていたが、ガムテープで補強したことで倒れなくなった」とい

った記述が見られた。また、「飛ぶと思っていたけれど飛ばなかったの、箱が大きかったのではないかと考え、次はおさしみのトレイにしてみたらレベルアップした」という振り返りも見られた。これらの記述から、児童が比較を通して変化や違いを捉え、その原因を考えながら改善につなげていたことが分かる。

また、「友達からアイデアをもらってレベルアップができた」といった記述も見られ、比較する活動が友達との学び合いを促す機会にもなっていた。児童は動画や記録を見返しながら改善点を考え、おもちゃのレベルアップを実感しつつ次の工夫へとつなげる姿を見せた。また、比較によって得られた気づきを基に新たな課題を見だし、再び試したり改善したりする姿も見られた。このことから、「試す」「改善する」「比較する」のサイクルが、自己調整を伴う探究的な学びにつながったと考えられる。

加えて、学習後の振り返りでは、「家でも作りたい」「次は別のおもちゃにも挑戦したい」といった記述が見られた。NHK ONE for School を通して学んだ探究の進め方を自分自身の活動に生かそうとする姿も見られ、学びが生活へと広がり、新たな課題や挑戦を見付けながら次の探究へ向かおうとする意欲の高まりがうかがえた。このことは、本研究で示した探究の型の最終段階である「次の探究へつなげる」姿の表れであると考えられる。

表1に示した児童の振り返りからも、「試す」「改善する」「比較する」といった探究の過程を繰り返しながら、友達との協働や次の学びへの意欲につなげていたことがうかがえた。

表1 児童の振り返りから見られた探究の変容

探究の型	代表的記述
問いをもつ	「どうやったら飛ぶのを工夫するのがむずかしかった」
試す	「何回も失敗してやっと飛んだ」
改善する	「ガムテープで頑丈にしたら倒れなくなった」
比較する	「ワゴムを3つにしたら遠くにいった」
協働して学ぶ	「友達からアイデアをもらってレベルアップできた」
次の探究へ	「家でも作りたい」

4 考察

NHK ONE for School は単なる知識伝達教材ではなく、探究的な学びを進めるための学習モデルとして効果的に活用することで、その価値を高めることができた。NHK ONE for School を活用した探究を繰り返し行うことで、比較・分析・改善するなどの探究的な見方・考え方を養うことができた。

また、NHK ONE for School を基に作成した学習計画（図3）を常時掲示したことは、児童が探究の過程を意識しながら学習を進める上で効果的であった。学習の見通しを可視化することで、自ら活動を選択したり、次の課題を考えたりする姿につながったと考えられる。

これらの経験を通して、2年生児童であっても自ら課題を見付け、試行錯誤しながら探究を進めることができた。また、情報活用能力の基盤づくりは探究的な学びを支える重要な要素であった。友達との対話や助言による協働的な学びも探究の深化に大きく寄与した。本実践は、水野・堀田（2018）が示す放送教材の教育的効果を確認するとともに、NHK ONE for School が「探究の進め方そのものを学ぶ学習モデル」として機能する可能性を示した。

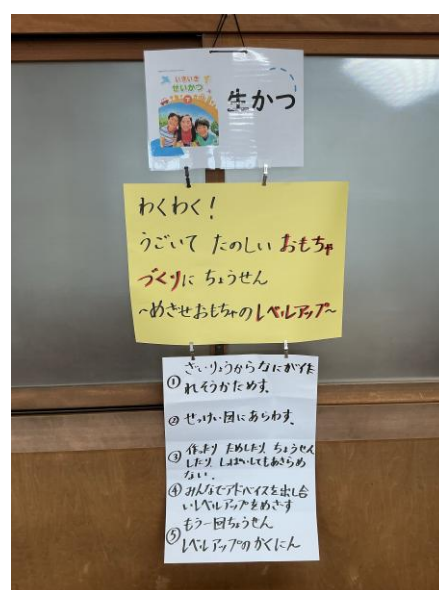


図3 学習計画の掲示

5 結論

本実践を通して、情報活用能力を基盤とし、NHK ONE for School を学びの手本として活用することで、2 年生段階においても探究の型を育成できることが示された。特に、「問いをもち、計画し、試し、振り返りながら比較・改善を重ね、次の学びへとつなげる姿」の育成に有効であった。

また、NHK ONE for School を活用することで、児童は探究の進め方を具体的にイメージしながら学習に取り組むことができた。さらに、番組の中の試行錯誤や協働的な学び、比較・改善の過程を手本として捉えることで、探究的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶ姿が見られた。以上のことから、NHK ONE for School は知識や技能の習得だけでなく、試行錯誤や協働、比較・改善といった探究の過程を学ぶ手本として機能し、低学年における探究的な学びの実現に有効であることが示唆された。

6 今後の課題

今後は、児童が自分の学びを振り返りながら改善していく自己調整と、友達との対話を通して新たな視点を獲得する協働的な学びを往還させることで、探究的な学びをさらに充実させていきたい。本実践では探究の型の育成に一定の成果が見られたものの、自ら比較の視点を見いだしたり、学びを次の探究へ自律的につなげたりする姿には個人差が見られた。今後は、NHK ONE for School を比較や改善の手掛かりとなる教材としてより効果的に活用し、「試す→改善する→比較する」のサイクルを繰り返しながら主体的に学び続ける児童の育成を目指したい。また、学習で身に付けた探究の型を他教科や日常生活の場面へと広げていくことについても検討していきたい。

参考文献

文科省小学校学習指導要領（平成 29 年告示）
解説「総合的な学習の時間」

文科省小学校学習指導要領（平成 29 年告示）
解説「生活科」

水野宗市・堀田博史（2018）「学校放送を活用した教育的効果の変遷：教育課程編成時の放送番組への期待」（日本教育メディア学会研究会論集 第 44 号）